

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年4月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4678600125
法人名	社会福祉法人 潤生会
事業所名	グループホーム ひまわり
所在地	鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋瀬久井西8番地3 (電話) 0997-73-1311
自己評価作成日	令和4年2月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和4年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひまわりの周囲は自然がいっぱいです。
野山からはいろいろな小鳥のさえずりが聞こえてきます。
昨年、奄美の天然記念物ルリカケスの雛二羽が台風で敗れた軒からひょっこり顔を出しびっくりしました。利用者も喜び一晩ひまわりで泊って頂きました。次の日、連絡してあった行政職員の方二名がきて、山に放すと言って連れて行きました。
ひまわりはグループホームとして平成16年1月開設され今日にいたっております。開設当時職員の大半は認知症の方達との触れ合いに戸惑いを感じた事もありました。家族がつなぎの服を持ってきたとき、こんなに便利な良い服があるんだと喜んだ事もありました。これが身体拘束だと指摘されました。今は介護にベテランの職員が頑張っております。
ひまわりは「匂いのしない施設を目指して」頑張っております。開所当時理事長と約束した言葉でした。
庭では大きなバナナが毎年実っております。
部屋から眺める外の景色は新鮮です。どうぞひまわりに遊びに来てください。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所の周りは自然がいっぱいで、地域の人々も自然をととても大切にしている。地域行事は自粛しているが、日課の散歩で住民と挨拶を交わしたり、子供110番を掲げて、施設の前を通る子供たちとの交流も楽しみにしている。
- ・職員は利用者のできる事、できている事に重きを置いたケアに取り組み、自立の支援に力を入れている。
- ・職員間のコミュニケーションが良く、職員からの意見や提案で、勤務体制の改善等を実施している。
- ・コロナ禍で外出や面会に制限がある中で、施設内でできるレクリエーションや体操・リハビリを取入れて、利用者が毎日楽しく生活できるように工夫している。
- ・身体拘束廃止委員会があり会議を定期的に開催し、「身体拘束はしない」を徹底している。
- ・災害対策として、地域防災無線が流れて、地域の情報や災害対策が早めに準備ができている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ミーティング初めにひまわりの理念を唱和、具体的なケアについて意見の統一を図り仕事の始まりとしています。	理念は意識を高めるため、玄関やホールに掲示しパンフレットにも掲載している。毎朝の申し送り後やミーティングの始めに職員で唱和している。3ヶ月ごとに振り返りをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として自治会に加入、子供110番を掲げ、地域の小学校の防犯活動に参加している。野菜や花苗を分け合ったり地域に開かれた施設をめざし、交流をしています。	自治会に加入している。感染症のため地域行事は殆ど中止になっているが、地域の有線放送や回覧板により地域の行事等を把握し、日曜日の清掃作業や島唄会に参加している。地域の人からの野菜の差し入れもあり、地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	寒い冬、道路の片隅に積もった落ち葉の中で、ハブの冬眠している姿を発見、あの日から週に1度利用者と道路の清掃作業を続けています		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染状況を見ながら運営推進会議を持っている状態でした。家族の意見、行政からのアドバイスを受けながらサービス向上に活かしております。	2ヶ月に1回実施している。感染症の状況を把握し、対面開催したり、書面で実施した時もある。コロナ禍での面会の状況や活動状況等の報告を行ない、意見等はサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	昨年2月指導監査を受けた、法人で勉強会をやった記録が無いことの指摘を受け、記録の大事さを知らされ、全員で記録に努めております	介護保険の申請や相談がある時等は直接窓口に出向いている。介護相談員や福祉課からの受け入れをしている。地域包括支援センター主催の研修があり施設から職員が参加し情報を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は絶対やってはいけない事、とわかっていても車いすや椅子の置き方ひとつで拘束に繋がる事に気づき、職員同士常に気を付け、お互い声を掛け合い身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	マニュアルを基に、年4回母体施設で一緒に勉強会を実施している。言葉のかけ方や馴れ合いにならないように職員間で注意し合っている。日中は施錠はしておらず、外出希望者へは様子観察をしたり、話し相手になって気分転換している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉のかけ方等に気を付ける様注意を払い、虐待防止に努める努力をしております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	令和3年11月専門員の研修を母体施設で受けた。ケアの中で言葉のかけ方に虐待と思う言葉が常にある事、参加できなかった職員にも申し送った。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時契約書に目を通してながら不安の無いよう説明し、理解を求めています。子供が直接会えない時は書類を送付、分からない所は説明をして帰省した時に説明をしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月家族へ請求書を同封し一人ひとりの状態報告、ひまわりでの出来事、家族からの要望等申し送りやミーティングで報告、運営に反映、役立てています。	利用者からは、リラックスしている時やトイレ誘導時・入浴介助時に聞き取っている。家族からは窓越し面会時や家族に手紙を送る時に誕生日の写真等も同封している。利用者の生活状況等を確認できるようにして、意見や要望を聞き、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	潤生会合同の職員会を月一度もちひまわり職員も参加している、運営について園長より直接聞く事が出来ている	日常の業務の中や月1回の合同の職員会議時に職員からの要望や意見を聞き取っている。ケアの方法やアイディア、勤務体制についての意見があり、反映できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	就業環境整備に話し合いを持ち時間修正などに努めた、労働時間帯の修正等条件の整備に努めた。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	記録の大事さに力を入れ取り組んでいます。監査で指摘を受け記録の大事さを職員は受け止めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染症を重点に置きお互いに遠慮しがちである、ホームに空きがあるか受け入れてくれるかの問い合わせは常に行い、お互いにサービスや質を向上させる取り組みをしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談を受けた時は本人と面談、今までの生活状況、本人の心身状況を聞き、安心して生活が出来る様努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と本人が困っている事は何か、どのような清潔を望んでいるかを聞き、信頼関係を築けるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なことは可能な限り対応できる様努め、家族にも協力得られるように努めています。早急な対応が必要な方にはケアマネージャや、事業者を紹介、サービスに繋げています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いを求まる中で「役に立っている」と実感持てる様な声掛けを多く持ち、仲間や職員との距離をちじめ良い関係が持てる様努力しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「お風呂を入れて元気に過ごした方がよい」奥さんの電話で促され拒否していた風呂に入り「気分良くなった、良い風呂ありがとう」と喜ぶご主人、携帯は二人の絆として離せません。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナが落ち着いた昨年の暮れ家族や知人の面会を呼びかけ外出など試みた。一時的であったが関係が途切れないよう個々に合った支援に努めています。	自宅周辺へドライブに行った時知人や親戚に会って言葉を交わしたりしている。家族とは窓越しの面会を実施し、写真を送っている。墓参りは、希望に応じて一人ずつ職員同行で実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの位置を決める事は大変です。気の合った同士として席を決めても困難が生じる。お互い支えあう事が出来る様支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ひまわりでの生活が1年を満たないまま転園、その後入退院を繰り返して亡くなった。施設での生活を知らない子供達へ写真送った。コロナで会えない母の生活ぶりが見えたと言った。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の訴えや仕草からも思いを察する様にしている、意思疎通が困難な方には本人の問題点や家族の意向を聞き、希望に添える様にしています。	3時と10時のお茶の時間に思いや意向を聞いている。日頃聞けないことなども話してもらえる。意思疎通の困難な利用者は家族から面会時に聞き取りをしたり、本人の仕草や行動・表情などから把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期の中で生活や病歴、状態を把握し、これまでの暮らしに近づけたサービスが出来る様支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況を把握し、その方のペースにあった日常生活が送れるよう支援しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が「自分らしくくらす」事を大切に本人・家族・職員間で話し合い、また医療機関からの情報とも連携し計画作成に努めております。	家族からは面会時に意向等を聞き、ケア会議で担当職員や主治医からのアドバイスを受けて、介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月ごとに行い、半年に1回振り返りや更新をしている。状況に変化がある場合は見直しを行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録（食事・水分摂取・排泄）が一見出来、ミーティングで情報を共有、休みの職員にも申し送り帳にて通達、介護の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「早急に入所したい」との申し出があり対応に苦慮する事もある、また家族の要望を受け、家族と協力し終末期の支援を行う事も出来た。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	「子供110番」を掲げ地域に役立てる様心がけている。日曜作業を通して通りがかりの方、近所の方達と言葉を交わす事もできている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診支援は本人、家族の希望するかかりつけ医を主に行っている。急な体調変化や必要時の受診は、かかりつけ医に従い、家族に報告し、職員同行の元受診、結果を家族に報告している。	入所前の主治医がかかりつけ医になっている。訪問診療、訪問看護を受けている。24時間医療連携体制が築かれている。他科受診は職員が同行し、医療機関で家族と待ち合わせをする事もある。受診の結果を家族へ報告している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の関わりの中で情報や気づきがあった時は訪問看護師に連絡、指示を受け適切な受診や看護を受ける事が出来る様支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供をして早めの退院を望む事をつたえている。入院時も常に状態把握に努め退院時にそなえています		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方は入所時に話し合いを行っています。昨年10月下旬5日間の看取りをしました。家族から相談を受けた時は戸惑いもありましたが職員の積極さがあって受け入れた。家族、医師、看護師、職員がチームになって一人の方を見送った時は良かったと安堵した	マニュアルがあり、契約時に重症化した時の説明をしている。利用者の病状に応じて、主治医から家族へ説明をしている。夜間でも急変時は往診がある。家族からの強い要望があり、家族、医療、関係者で取り組み、事業所で看取りをした事例がある。今後も体制次第で看取りを行っていく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体施設でTEDを使った講習会を持ち全員受けて居る。小さな出来事もヒヤリハットに上げ事故につながらない様にしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防職員の協力を得て避難訓練をしている。避難経路の確保、消火器の置き場所の確認、消火器の使い方の訓練を受けている。自治会長はひまわり推進会議の一員として参加し、協力体制を築いています。 1/15夜中の津波警報、課題が残りました。	マニュアルがあり、年2回消防署の立ち合いにより避難訓練を実施している。写真と共に記録も残している。台風時に施設の屋根が壊れた際は自治会長に相談して、地域の人達が協力し母体の施設へ避難移動した。備蓄は母体施設の方で準備しているが、少量は当事業所にもある。米・水・缶詰・乾麺等がある。防災頭巾の代わりに座布団を置いている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉には霊が宿ると言われる様に言葉のかけ方ひとつで人を傷つけてしまう事もある。利用者の尊厳を重視し一人ひとりに適切な言葉掛けに配慮している。	年4回勉強会を実施している。トイレ使用時にはカーテンを閉め、入浴時はタオルを掛ける等羞恥心を守るように支援している。声掛けやノックをしてから入室している。基本はさん付けで呼んでいるが、本人に合わせた呼び方をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の背景を知り、その人にあった支援を行う様、傾聴・受容・共感をもって本人が何を希望しているのか、出来るだけ本人の意思を尊重しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れはあります個々に出来る所を見つけ、個々にあった物、脳トレ、洗濯たたみ、洗濯干しを手伝ってもらい髭剃りも出来る範囲でやってもらいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	鏡を見て髪を整えお化粧をしてもらう、洋服も自分の好みを来てもらう様アドバイスしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昨年（10月）からフリーザ食に変更、調理時間が短縮になったので利用者と下膳、テーブル拭き、お膳ふき、消毒等を談話しながら行っています	敷地内に菜園があり収穫を楽しみにしている。嗜好調査をしたり季節感のある物や行事食に変化を持たせた食事作りをしている。フリーザ食になり食事作りの時間をケアの時間に変えている。台ふき、下膳、テーブル拭き、誕生日のケーキの飾りつけ等を利用者と一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調に気を付け、食事、水分の摂取に残量が無いか個々にあった食事形態を心がけています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後残差物が残らないよう、うがい、歯ブラシは気を付ける様にしている。誤嚥性肺炎に繋がらないよう口腔ケア心がけています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いトイレ誘導、自室にトイレが設置されている為、歩行困難な方は、トイレ近くまでベッドを寄せ排泄の自立を目指し支援しています。	排泄チェック表を作成している。時間や表情や動きの様子で判断し、自室のトイレへ誘導している。誘導時は周りに気付かれないよう優しく声かけをしている。退院後はリハビリパンツになっていることが多いが、日常生活の中でトイレ誘導をしての排泄を繰り返す事で、外せる場合も多い。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を見ながら便が3～4日確認できない方は処方された便秘薬を使用、おやつに植物繊維を使った手料理も工夫し予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回入浴日としているが、いつでも風呂は入れる状態にしている。入浴を拒む方はタイミングを見て済ます事もある、5月5日のしょうぶ湯、ゆずが手に入った時等季節にあった入浴もある	週3回、入浴日としている。希望がある時は、別に入浴を実施している。入浴拒否者は、時間や職員を変えたり、家族から電話をしてもらったりしている。しょうぶ湯やよもぎ湯を季節の行事として実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動を主とし、夜はゆっくり眠ってもらえる様にしている、寝付けない方は飲み物を提供、喜んで眠ってくれます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬説明書は職員が把握できるように保管しています。薬に日付を付け飲み忘れが無い、本人の薬か、飲んだかを確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、下膳、テーブル拭き、お盆拭き等手伝って貰います、ありがたい言葉で感謝を伝え、明日もお願いしています		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ感染予防のため室内での行動を求められている毎日、日光浴、遊び、リハビリ運動等で変化を付けている。個々の状態を観ながら家族に受け入れをお願いし管理者の責任の下自宅訪問する事もある、お墓参りをした姿を写真に収め県外に住む子供に喜ばれたこともあった	母体の施設と当事業所の間に小川があり、車いすの利用者も含めて散歩を楽しんでいる。花の季節や紅葉の季節時にはドライブに出かけている。今後はふるさと巡りとして個々のふるさとを訪ねて、墓参りに同行する計画を立てている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族の依頼で管理者が預かり必要な物を買ひ、毎月家族に報告しています。受診同行時はお金の心配をさせない為本人に支払いをさせています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	自分から電話を掛ける事はない字は目が見にくい等で書こうとしない。家族は本人の携帯に電話を掛けてくださるので職員は繋いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「良い施設は匂いを出さない」代表者が常に発している言葉です。私たち職員も常に清潔で匂いの無いひまわりを目指して今日まで来ました。プライバシーを守りながら居心地良く過ごせる共用の空間づくりを心がけています	ホールは温度計・湿度計等があり、適度の温度が調整されている。採光はカーテンを利用している。壁には季節ごとに作成した作品やぬり絵、貼り絵等が掲示されている。大型テレビの前にソファを置き、ゆっくりくつろげるような配慮を行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に行き来できる共用空間の中で、テレビを観たり歩行練習やレクリエーション等、思い思いに過ごすことが出来る様に工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自宅で使っていた布団、枕、タンスを入所時に置き、本人が安心した生活が出来る様家族の協力を得ています。	ベッド、タンス、エアコン、洗面台、トイレの設置がある。加湿器も各部屋に置いてある。寝具類や家族の写真、ラジオ、ラジカセ、タンスなどの持ち込みがあり、居室はプライバシーを守り自分なりの活動ができるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は常に利用者の側にいて、部屋から見える外の景色と一緒に感動し、平行棒で自主練習をしている利用者に付き添う、庭に出てバナナの成長を見る、花を楽しんだり、自立した生活が送れるよう工夫しています。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない